



平成25年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年8月10日

上場会社名 ケンコーマヨネーズ株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 2915 URL <http://www.kenkomayo.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 炭井 孝志  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 村田 隆 (TEL) 03-5962-7777  
 四半期報告書提出予定日 平成24年8月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第1四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第1四半期	13,447	7.8	781	129.3	753	119.0	434	186.4
24年3月期第1四半期	12,476	△1.1	340	△54.1	344	△53.2	151	△62.1

(注) 包括利益 25年3月期第1四半期 468百万円(203.2%) 24年3月期第1四半期 154百万円(△55.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第1四半期	30.54	—
24年3月期第1四半期	10.67	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第1四半期	31,149	13,676	43.9
24年3月期	30,404	13,492	44.4

(参考) 自己資本 25年3月期第1四半期 13,676百万円 24年3月期 13,492百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	20.00	20.00
25年3月期	—	—	—	—	—
25年3月期(予想)	—	10.00	—	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	26,700	3.3	1,250	31.3	1,180	26.1	520	4.3	36.59
通期	52,700	1.6	2,300	7.3	2,150	3.7	1,070	3.9	75.29

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 一社 、 除外 一社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料5ページ 「2. サマリー情報 (注記事項) に関する事項 (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (四半期累計)

25年3月期1Q	14,211,000株	24年3月期	14,211,000株
25年3月期1Q	91株	24年3月期	91株
25年3月期1Q	14,210,909株	24年3月期1Q	14,210,909株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は実施中であります。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「(3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	5
3. 四半期連結財務諸表 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	8
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	8
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	9
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	10
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	10
(5) セグメント情報等 .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日）におけるわが国の経済は、電力の安定供給に対する不安や為替相場が依然として歴史的な円高水準で推移していましたが、復興需要の本格化による公共投資の増加や個人消費は自動車に対する需要刺激策等の効果により堅調に推移し、また企業業績においても緩やかに改善が進むなど、昨年秋以降に見られた足踏み状態から持ち直しの兆しが見られております。

このような事業環境の中、当社グループにおきましては、さらなる飛躍を目指すため当連結会計年度を初年度とする『中期経営計画Ⅳ（フォース）2012-2014』の策定を行い、「市場演出型企業としての成長戦略」を指針とし、新しいサラダの領域の確立、「市場演出型企業」としての存在感アップ、グローバル企業への成長を目指してまいります。また、この指針を実現させるため、以下の5つの成長戦略を掲げております。

#### ① サラダカフェブランドの推進・浸透

サラダカフェのショップ及びウェブを活用して、様々な食シーンの演出や提案等の発信を積極的に行うことにより、市場演出型企業としての存在感をアップさせてまいります。あわせてサラダカフェブランドの更なる浸透を図ってまいります。

#### ② サラダ料理・世界のソースの情報発信

当社では「サラダ料理」を、野菜を軸として、あらゆる食材（肉類・魚介類・乳加工品）とあらゆるソースとの調和を図り、進化発展させた主菜となるサラダと定義しております。また、世界各国の特徴あるソースを商品づくりに活かした「世界のソース」シリーズを提案しており、サラダ料理とあわせて世界に向けて情報発信を行い、市場演出型企業としての戦略を実践してまいります。

#### ③ 事業領域の拡大 タマゴ／ポテト産地の育成～製品までのプロとなる

当社の強みであるタマゴやポテトに関する知識・ノウハウを更に掘り下げ、優位性を高めてまいります。タマゴ加工品については、その領域を原料である「殻付き卵」から「タマゴ製品」まで上げ、すべてに一貫したシステムを構築します。そのうえで各々の工程で生み出された、原料・素材に近い商品の販売機会を拡大してまいります。また生産者との取り組み強化や新しい産地の開拓、新しい品種の導入等も進めてまいります。

#### ④ グローバル企業となる

中国に続く、海外展開の2か国目としてインドネシアに合弁会社の設立を決定いたしました。また輸出の拡大や海外産原料の活用を進めるなど、「ケンコーサラダワールド」の展開を加速させてまいります。

#### ⑤ 人材の育成

市場演出型企業としての戦略立案及び実行ができる人材やグローバルな視点で判断・行動ができる人材の育成を進めるため、現在の研修制度等を更に充実させるなど、組織・体制等の整備を進めてまいります。

なお市場演出型企業としての取り組みとして、サラダのレシピ集に続き、ドレッシングのレシピ集も発刊し、メニューの提案、当社の認知度アップを図っております。また当社ホームページのオンラインショップのリニューアルを行い、商品ラインアップの充実や利便性の向上を図り、当社製品をより知って頂く機会の増加に努めております。更に株主通信ケンコーレポート第2号を発刊し、今後も年2回継続して株主の皆様への情報発信をしてまいります。また前連結会計年度まで進めてまいりました「マヨネーズ・ドレッシングからソースへ、業域を拡大する」という指針に基づいた実践の成果として、当社商品である「ガーリックバターソース」が日本食糧新聞社制定の(第16回洋食部門)「業務用加工食品ヒット賞」を受賞いたしました。

グローバル化の展開につきましては、前連結会計年度末に完成した浙江省杭州の新工場においてマヨネーズ・ドレッシング・ソース類の生産を開始し、売上の拡大を進めております。また中国に続く海外拠点として、平成24年5月28日のプレスリリースの通り、インドネシアに合弁会社を設立することを決定いたしました。今後は東南アジアへの事業展開も強化してまいります。

当第1四半期連結累計期間における売上高及び利益面の概況は以下のとおりであります。

#### ①売上高

売上高につきましては、前年同四半期が震災直後であり、各種イベントを自粛していたという影響もありますが、従来より進めてまいりました外食・パン等の分野別チームの取り組みの成果が、売上高増へ大きく寄与しております。その結果、前年同四半期対比で増収を達成するとともに、平成24年5月10日に公表しました連結売上高予想に対して、第1四半期時点で予想を上回る進捗であります。

#### ②利益面

利益面につきましては、販売数量増に向けた取り組みが、工場の稼働率アップに寄与し、利益増への大きな要因となりました。また前年同四半期における原料価格高騰の状態から原材料相場が落ち着きを見せている事もありますが、当社グループの収益改善への取り組みとして、生産工程の改善や経費の圧縮等による製造コスト低減を実施してまいりました。販管費につきましては、グローバル化への取り組みやIT投資、またブランドの浸透や企業イメージの向上を目指す費用等の事業計画を実行いたしました。その結果、販管費は増加いたしました。販売数量増と製造コスト低減等の企業努力により吸収し、連結営業利益、連結経常利益、連結四半期純利益いずれも前年同四半期対比で増益であり、平成24年5月10日に公表しました連結業績予想に対して、第1四半期時点で予想を上回る進捗であります。

当第1四半期連結累計期間における連結売上高は13,447百万円（前年同四半期比971百万円の増加、7.8%増）、連結営業利益は781百万円（前年同四半期比440百万円の増加、129.3%増）、連結経常利益は753百万円（前年同四半期比409百万円の増加、119.0%増）、連結四半期純利益は434百万円（前年同四半期比282百万円の増加、186.4%増）となりました。

各報告セグメントの状況は次のとおりであります。

#### 調味料・加工食品事業

<調理加工食品>につきましては、従来からの主力商品でありますポテトサラダ、パスタサラダ、ツナサラダが量販店、コンビニエンスストア、製パン向けに新規採用されたことに加えて、パンプキン、オニオン等の素材を活かした商品が伸張し、増収となりました。

<マヨネーズ・ドレッシング類>につきましては、量販店及び製パン向けに1kg形態のマヨネーズが伸張したことに加え、ドレッシングも外食向けや西日本工場製の主力商品が大幅に増加いたしました。また新製品のソースが様々な分野で採用され増収に寄与いたしました。

＜タマゴ加工品＞につきましては、製パン及びコンビニエンスストア向けのサンドウィッチ用のタマゴサラダや焼成パン用のタマゴサラダが新規採用されました。また、コンビニエンスストアや外食、量販店等で麺用の錦糸卵やスクランブルエッグを使用した商品が新規採用されたことにより大幅な増収となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は11,425百万円、セグメント利益は704百万円となりました。

#### 総菜関連事業等

前連結会計年度に実施した生産拠点の統合効果が満額寄与していることや主要な原料である卵相場が落ち着いていること、またコストダウンへの取り組みを進めた結果、利益率が改善され増益となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は1,760百万円、セグメント利益は99百万円となりました。

新しい中期経営計画の冠であるフォースの意味には、当社グループにおける4番目の中期経営計画であることと、フォースは「力」を意味する言葉でもあり、新中期経営計画をグループ総力で力強く押し進めていく、という意味を含めております。まず『中期経営計画Ⅳ（フォース）2012-2014』の初年度である当連結会計年度の目標数値を確実に達成させるべく進めてまいります。

### (2) 連結財政状態に関する定性的情報

#### (総資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、31,149百万円（前連結会計年度比744百万円の増加、2.4%増）となりました。これは、主に受取手形及び売掛金が663百万円増加したこと等によるものであります。

#### (負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債は、17,473百万円（前連結会計年度比560百万円の増加、3.3%増）となりました。これは、主に短期借入金が増加したこと等によるものであります。

#### (純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、13,676百万円（前連結会計年度比184百万円の増加、1.4%増）となりました。

#### (自己資本比率)

当第1四半期連結会計期間末における自己資本比率は43.9%（前連結会計年度比0.5ポイント減）となりました。

### (3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年5月10日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

#### (税金費用の計算)

連結子会社における税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,017	4,103
受取手形及び売掛金	9,650	10,313
商品及び製品	1,290	1,284
仕掛品	18	13
原材料及び貯蔵品	663	729
繰延税金資産	336	258
その他	133	280
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	16,107	16,981
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,507	4,445
機械装置及び運搬具（純額）	2,905	2,822
土地	3,879	3,879
その他（純額）	288	296
有形固定資産合計	11,580	11,444
無形固定資産		
無形固定資産合計	368	384
投資その他の資産		
繰延税金資産	207	215
その他	2,168	2,151
貸倒引当金	△27	△27
投資その他の資産合計	2,347	2,339
固定資産合計	14,297	14,167
資産合計	30,404	31,149
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,997	8,383
短期借入金	—	600
1年内返済予定の長期借入金	786	822
未払法人税等	422	266
その他の引当金	408	283
その他	3,591	3,637
流動負債合計	13,207	13,992
固定負債		
長期借入金	1,934	1,731
退職給付引当金	539	561
その他の引当金	144	142
その他	1,087	1,045
固定負債合計	3,705	3,480
負債合計	16,912	17,473



	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,180	2,180
資本剰余金	2,448	2,448
利益剰余金	8,789	8,939
自己株式	△0	△0
株主資本合計	13,418	13,568
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	136	117
繰延ヘッジ損益	△0	△0
為替換算調整勘定	△62	△8
その他の包括利益累計額合計	74	108
純資産合計	13,492	13,676
負債純資産合計	30,404	31,149

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 四半期連結損益計算書  
 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
売上高	12,476	13,447
売上原価	9,288	9,639
売上総利益	3,187	3,807
販売費及び一般管理費	2,846	3,026
営業利益	340	781
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	9	10
その他	24	14
営業外収益合計	33	25
営業外費用		
支払利息	26	16
持分法による投資損失	3	36
その他	0	0
営業外費用合計	30	53
経常利益	344	753
特別利益		
投資有価証券売却益	—	2
特別利益合計	—	2
特別損失		
災害による損失	7	—
固定資産除却損	10	0
投資有価証券評価損	0	—
減損損失	—	2
事業整理損失	8	—
特別損失合計	26	3
税金等調整前四半期純利益	317	753
法人税、住民税及び事業税	78	253
法人税等調整額	87	65
法人税等合計	166	319
少数株主損益調整前四半期純利益	151	434
四半期純利益	151	434

四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	151	434
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3	△19
繰延ヘッジ損益	0	0
持分法適用会社に対する持分相当額	△1	53
その他の包括利益合計	2	34
四半期包括利益	154	468
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	154	468
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

## (5) セグメント情報等

## 【セグメント情報】

## I 前第1四半期連結累計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	調味料・ 加工食品事業	総菜関連 事業等	計				
売上高							
外部顧客に対する売上高	10,463	1,784	12,247	228	12,476	—	12,476
セグメント間の 内部売上高又は振替高	124	2,018	2,143	—	2,143	△2,143	—
計	10,588	3,802	14,391	228	14,619	△2,143	12,476
セグメント利益又は損失(△)	331	16	347	△0	347	△3	344

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△3百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

## II 当第1四半期連結累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	調味料・ 加工食品事業	総菜関連 事業等	計				
売上高							
外部顧客に対する売上高	11,425	1,760	13,186	261	13,447	—	13,447
セグメント間の 内部売上高又は振替高	112	2,063	2,176	—	2,176	△2,176	—
計	11,538	3,824	15,362	261	15,624	△2,176	13,447
セグメント利益又は損失(△)	704	99	804	△45	758	△4	753

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△4百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。